



別府港北浜ヨットハーバー

不思議なまち。
外国のような、下町のような、
不思議なまち。

ち歩きまわったのだという。「今まで経験したことのないまちだなと思ったんですけどね。外国みたいだなって感じがしたんです。でも生まれ育った東京の下町のような感覚もあるし、不思議なまちだなって」。房総半島や伊豆、

トルコ、若い頃住んでいたフランス等、移住先として検討していたところはいくつもあったが、この滞在をきっかけに別府への移住を決めた。現在の家を友人の紹介で見つけ、千葉の自宅を売却し、2008年に別府

に引っ越した。「別府は山も海もあって自然が素晴らしいし、すぐく住みやすいです。あと温泉のあたりがたみですね」。70歳以上の市民に配布される市営温泉の優待チケットを利用して温泉を楽しんでいる。「別府にはたくさん泉質があるから、あちこちの温泉に行っています。同じ温泉でも、シーズンや天候で泉質が変わったりもするので、面白いですよ」。今は暮らしをトータルに提案するデザインの仕事をしながらも、長年の趣味であるヨットや、まち歩きのボランティア、様々な文化事業に関わるなど、エネルギーシユに別府での暮らしを楽しんでいる。



>移住者<
いでづか あきひこ
出塚昭彦さん(74歳)

山も海も 温泉も

おじいちゃん



出塚さんのお気に入り



中心市街地

まちの中のヨットハーバー

「海から見る別府は、ナポリよりも素晴らしい。こんな静かな海、他にないですよ」そう言って目を細める出塚さんは、もう40年ほど趣味でヨットに乗っているそう。中心市街地からも近い別府港北浜ヨットハーバーには、車椅子用の設備もあり、出塚さん自身も障がい者ヨットチームのサポーターをしている。「いろんな人にヨットに乗ってもらいたいです。海の楽しさを知ってほしいな」と、メンテナンスにも力が入る。

移住データ

移住歴:6年
職業:自営業(デザイン事務所)
以前の居住地:千葉県千葉市
移住のきっかけ:まちが気に入った
居住エリア:関の江
5LDK 一軒家 持ち家

「何だこのまちは！って思ったの。驚きましたよ」別府のまちに出会ったときのことを、出塚さんはそう語る。8年ほど前、長年住んだ千葉県の幕張ベイタウンを離れ、夫婦二人でのんびり老後を過ごそうと移住先を探していた頃、たまたま別府を訪れた出塚さん。2晩の滞在の間に時間を見つけてはまちをあちこ